当事者・支援者の目線から伝えたい。
～虐待を見逃さないための子どものサイン～

一般社団法人 コンパスナビ
Youtube情報発信番組
THREE FALGS ～希望の狼煙～
ブローハン聡

ブローハン 聡 自己紹介

🇵🇭 × 🇪🇸 × 🇯🇵 × 🇨🇳

4年に1度しか誕生日が来ない閏年に生まれる

現在 7歳と2年目 ＝ 30歳

趣味はバスケと楽器と歌（🎹 🎸 🎤）

日本1周🗾（東は車で🚗西はヒッチハイクで👍）

JUNON BOY

a knitting cardigan with the donkey collar of a volume neck, and the presence come out of and expressed. It covers on a button, is use about a button, and an accent. A soft knitting material emphasizes the whole atmosphere to a limit. It plays an active part in an all genre, and functionality is also high and perfect for future time.

a knitting cardigan with the donkey collar of a volume neck, and the presence come out of and expressed. It covers on a button, is use about a button, and an accent. A soft knitting material emphasizes the whole atmosphere to a limit. It plays an active part in an all genre, and functionality is also high and perfect for future time.

Denim Jacket

The short length blouson of the collar design of force

BR

当事者としての発信活動

支援者としての活動

本の紹介

2021年10月8日
さくら舎より出版

目的

①社会的養護をより多くの人々に関心を持ってもらう。
②社会的養護当事者の次の世代の道しるべをつくる（支援者 道しるべ）
③番組を見た人に次のアクションを提案していく

皆と一緒につくり上げていく番組の応援を宜しくお願い致します！

映像作家/絵本作家 西坂來人 ✕ ACHA PROJECT代表 山本昌子 ✕ タレント兼モデル BRO【ブロ】

2021年度も多くのメディアで紹介していただきました！

埼玉新聞 【新聞定価1カ月2983円（本体価格2762円＋消費税221円）】1部売り120円 （第3種郵便物認可）

親と離れた若者に居場所

さいたまの「クローバーハウス」

養護施設経験者が運営

「クローバーハウス」の一室でくつろぐ利用者とブローハン聡さん（左から2人目）＝3月、さいたま市

虐待や経済的理由などで親と離れ、乳児院や児童養護施設で暮らした経験者が中心となり、同じ境遇の若者が集える一軒家「クローバーハウス」をさいたま市で運営している。管理責任者は養護施設出身のタレント、ブローハン聡さん(29)。「将来をイメージしにくい若者に多くの価値観を伝え、人生を切り開く後押しをしたい」と語る。

JR浦和駅近くの2階建て民家。昨年夏から通う女子高校生(17)は「何でも話せる大切な場所」と笑顔を見せた。両親の虐待から逃れて自立援助ホームで生活する中、似た経験を持つハウスのスタッフや利用者との情報交換が大きな支えになるという。

ハウスは2017年、社会的養護を受けた若者の居場所をつくる県の事業として開設。19年にブローハンさんらが所属する一般社団法人青少年自助自立支援機構（さいたま市）に運営を委託され、週末にオープンしている。読書やテレビ、おしゃべりなど過ごし方は自由だ。

常駐スタッフは全員、社会的養護の経験者。利用者の相談に乗り、生活保護など公的援助の橋渡しも務める。養護施設出身の社会人らをゲストとしたトークイベントも定期的に開く。

ブローハンさんは幼いころに義父から虐待を受け、11歳から高校卒業まで養護施設で暮らした。その後、携帯電話の販売店で働きながらフリーで芸能活動に挑戦。時間を見つけてはヒッチハイクで全国を巡り「多様な価値観に触れ、考えの幅が広がった。あの時の出会いが自分の軸になっている」と振り返る。

ハウスの利用者には、大人の事情に左右されてきた成育歴から、自己肯定感が低く他人に依存しがちな人もいるという。そうした若者を孤立させず「まずは一度つながらなければ」と語るブローハンさん。自分で物事を決める力を身に付け、チャンスをつかめるよう「一緒に悩み、考えていきたい」と思いを込めた。

朝日新聞 2022年（令和4年）2月10日（木） 13版 第2埼玉 20

「誰かとつながる」を支援

さいたまトーク

若者の居場所づくりに取り組む ブローハン聡さん(29)に聞く

施設から社会に出た後の孤立防ぐ

児童養護施設や里親のもとで暮らす若者の支援について、国は今、原則18歳とする年齢制限をなくそうとしている。社会に出た後、孤立や困窮に直面する実態が問題視されているからだ。虐待を受け施設で育った経験をもとに、こうした若者の居場所づくりに取り組む一般社団法人「コンパスナビ」のブローハン聡さん(29)に現状を聞いた。

――「居場所づくり」とはどのような取り組みですか

さいたま市のJR浦和駅近くにある民家を借り、施設などの出身者が気軽に立ち寄れる場所「クローバーハウス」を運営しています。親を頼ることが難しく、困りごとを抱え込みがちな彼らを支えるのが目的。県の委託を受け2019年から始まったもので、僕は当初から中心となって利用者に接しています。

――利用者はどんな悩みを抱えているのでしょう

親から虐待され、自己肯定感が低い人が少なくありません。そういう人は人を頼り、SOSを発することが苦手です。僕は最初の就職先で気づいたら借金を背負わされていましたが、最近だとコロナで雇い止めにあったなど就職トラブルは多い。「どうしたいのか」を丁寧に聞き取って、専門家につなぐなど問題解決の糸口を探ります。そうした関わりの中で、少しずつ意思決定できるようになります。

相談にのるほか、お弁当を100円で提供したり、お金について学べる講座などを開いたりしています。孤立を防ぐのが目標なので、ただおしゃべりするのも歓迎です。

――自身も施設出身ですね

幼少期は壮絶でした。実父に認知してもらえず無戸籍で、4歳でできた義父には継続的に身体的な虐待を受けました。ライターであぶられたやけどに小学校の先生が気づき、11歳で児童養護施設に入りました。

2年ほどは警戒していましたが、空気を読んで適応するのは得意だったし、ピアノやスポーツで褒めてもらえることも多く、施設での生活に不満はありませんでした。

――経験は、いまの活動にどう生かされていますか

高3の夏、自立の方法について施設の先生と話した際、僕が希望した音楽系専門学校への進学について「稼げない」と否定されました。でも、当時の僕には「特定の仕事に就いてお金を稼ぐ生活」が想像できませんでした。卒業と同時に施設を退所し、様々な仕事に就きました。

社会に放り出されたような不安を抱える中、似た境遇の若者たちと知り合い、生い立ちを語る当事者活動を始めました。多くの人が応援してくれ、社会とつながっていると実感できるようになりました。人の顔色を読む癖が、人と仲良くなるスキルとして役に立ったと思えました。

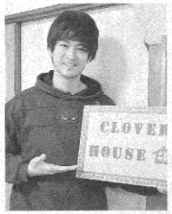
誰かとつながるちょっとしたきっかけが人生を変え、過去をとらえ直すこともできると伝えたいと思っています。

――課題は何ですか

視察した欧米と比べ、日本では施設など社会的養護への理解も関心もまだまだ低いと感じます。当事者自身の意識にも大きな隔たりがある。例えばカナダでは、社会的養護を受ける子どもたち自身が生活に対する要望を訴え、大人が受け止める態勢があり、意識の違いに驚きました。それこそ大事なこと。社会はみんなが作っていくべきです。

小学校で講演するなど当事者活動を続けていますが、僕が施設を出たのももう10年前。状況は変わっています。今後は新しい発信をする当事者を支える活動もしたいと思っています。

（聞き手・小林祝子）



ブローハン・さとし 1992年、フィリピン人の母と日本人の父との間に東京都で生まれる。義父から虐待を受け、11歳で児童養護施設へ。退所後、携帯電話会社の営業やフリーモデルなど様々な仕事を経験。2019年から一般社団法人「コンパスナビ」（さいたま市）で、児童養護施設の退所者などを対象とした居場所づくりに携わる。昨年、初の著書「虐待の子だった僕」（さくら舎）を出版した。

11 オピニオン 13版 2022年（令和4年）3月30日（水） 毎日新聞

オピニオン

論点 「18歳成人」の意味は

成人年齢を18歳に引き下げる改正民法が4月1日から施行される。若者の社会参加を促すのが狙いだが、消費者トラブルの増加懸念されている。一方で、両親への依存など若者の未熟化の指摘根強い。「成人」にはどんな意味があるのか。「大人になる」とどのようなことなのか考えた。【聞き手・鈴木直】

明日は自分で決められる

ブローハン 聡
モデル

ブローハン・さとし
1992年、フィリピン人の母と日本人の父の間に生まれる。社会的養護出身の当事者としてYouTubeで配信。著書に「虐待の子だった僕 実父義父と母の消えない記憶」。

4月から18歳で「大人」になる人たちには、「自分の明日は自分で決められるんだよ」と伝えたい。

4歳から母の結婚相手だった義父の虐待を受け、11歳で児童養護施設に入った。施設は一般的に18歳で退所するが、僕は小学校入学が1年遅かったので、高校卒業の19歳で出た。このとき、「独り立ち」することに特別な思いはなかった。母は、僕を育てるために働きづめで、親戚や友人たちに預けられて生活することが多かったので、「また暮らす場所が変わる」という程度だった。

いろんな人に養育されたので環境の変化に対応するのがうまかった。カメレオンみたいに周りの大人の色に合わせて自分を消せばいいのだ。

でも、児童養護施設や里親といった社会的養護出身の人の多くは、18歳で世の中に出て行くことを怖いと思っているように思う。1人暮らしなんて想像もしたことがないのだから、当然だろう。

僕の場合は施設を出た時点では、「大人になった」とか「大人にならなければ」とか意識したことはない。それよりも、「成長したい」と強く思っていた。「世の中から認められていない」と常に感じていたので、成長することで認めさせたいという意識があったのだろう。

だから頑張って働いた。派遣社員として携帯電話の販売店に勤めていた時には売り上げ全国トップになった。自分を誇らしく思ったし、お客さんや派遣先にも喜んでもらえた。だが、振り返ってみると、自分とその周囲だけで完結する世界だったなと思う。

今は、埼玉県の一般社団法人「コンパスナビ」の職員として、社会的養護出身の若者の居場所やよりどころづくりの事業にかかわっている。この仕事は、児童虐待などの問題と直結していて、社会とつながっていると感じる。そこにやりがいや使命感がある。

同時に、責任も感じる。社会的養護出身の当事者である自分の発する言葉がどのように相手に受け取られるか。自分の行動が、若者に希望のある社会づくりに役立っているのか。そう感じ始めたときに、「あ、大人になったかな」という気がした。

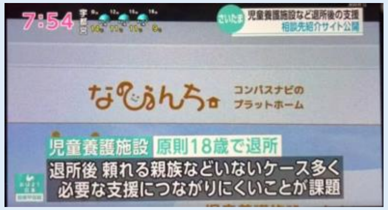
自分のフェイスブックで「大人とは何?」って投稿したことがある。21人から返信があった。俗世間に流された人▽自分で答えを出せる人▽謙虚さを兼ね備えている人▽守ることがあること▽区別しなくていい――など回答はバラバラだった。答えを見ながら、「大人とは何か」を考えることは、自分自身を問うことだなと思った。

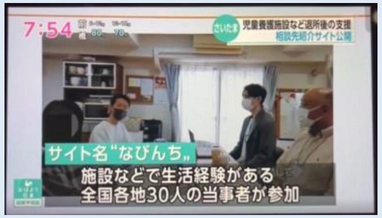
学校が1年遅れだった。成人式には同級生と出たかったので、21歳になる年に参加した。そのころ、大人からの支配や制限、細かなルールといったものに縛られず、自由に行動することに憧れていた。友達を誘って2人で東北地方を車で回った。自分の意思で自由気ままに行動しよう、世界を広げようと思ったのは初めてだった。この時に、「自分で自分の色を作ればいいんだ」と思えるようになり、「自分の人生は自分が主人公なんだ」と思えた。

NHK　関東甲信越「おはよう日本」

2022年4月13日　AM7:53～

コンパスナビのプラットホーム「なびんち」について放映されました。





埼玉

東京新聞

9/14　　２０２２年９月９日の講演会

厳しい環境の子ども知って

施設～社会に出た時の支援

さいたまでシンポジウム

当事者でもある5人が体験をふまえた意見を交換したシンポ＝いずれもさいたま市の埼玉会館で

虐待や貧困で親元から離れ、施設などで育った若者が社会に出た時の支援について考えるシンポジウムが九日、埼玉会館（さいたま市）で開かれた。児童養護施設で育った俳優の古原靖久（ふるはらやすひさ）さん（三六）、ミュージシャンの矢野デイビットさん（四二）らが登壇。深刻な体験を語りながらも軽妙なトークで会場を沸かせ、「厳しい環境で育つ子どもがいて、社会に出て困難に直面する。その現実を知る人が増えれば、少しずつ優しい世界になっていく」と訴えた。（出田阿生）

古原靖久さん

若者の自立を支援する一般社団法人コンパスナビ（さいたま市浦和区）が、困難を抱える背景を理解してもらおうと主催した。

コンパスナビによると、施設を出た若者の高卒就職率は六割で、全国平均の約三倍。就職しても二年後の離職率は約四割と高い。虐待のトラウマ（心的外傷）があるため、一人暮らしをすると心を病みがちになる。住み込みの就労も多いが、仕事を辞めると家まで失う。お金の管理など生活知識が乏しく、社会に出てすぐにつまずいてしまう。

シンポにはゲスト二人のほか、児童養護施設出身者の声を動画発信する「スリーフラッグス」のブローハン聡さん（二九）、山本昌子さん（三〇）、西坂来人（らいと）さん（三六）が司会役で参加し、それぞれの体験や意見を語った。

決められた仕事を断り芸能界へ

ＮＨＫの情報番組「あさイチ」でリポーターを務めるなど、映像や舞台で活躍する古原さんは「会えない母に僕は元気だよと伝えたくて、本名で芸能活動を始めた」と明かした。母は十六歳で古原さんを産み、十九歳で離婚。古原さんは就学前に児童養護施設に入った。母との面会は小学五年で途絶えた。気付いた時には亡くなっていたという。

当時は子どもを厳しく管理する施設の方針があり、「殴られて眼鏡を壊されたり、悔しい思いをしながら育った。小学生の時は放課後も学校になるべく居残った」。退所直前まで進路が未定だったため「住み込みの新聞販売店の仕事を用意してある」と職員に言われた。「（施設側の）思い通りにはならない」と、以前からスカウトされていた芸能界に入った。戦隊ヒーロー番組の主役を務めた時、「ヤスみたいになりたい」と施設の子らに言われ、初めて人に認められた気がしたという。

矢野デイビットさん

苦労のこと退所前学びたかった

「周囲の大人にできること」を会場から質問された古原さんは「厳しい環境で生きる子どもがいることを知ってほしい。悩みを抱える子は見た目では分からない。話を聞いてあげるだけで救われるし、『普通の子』として接するのが一番だと思う」と語った。

もう一人のゲストの矢野さんは、日本人とガーナ人の両親の間に生まれ、六歳で来日。八歳から十八歳まで施設で育った。「肌の色が黒いといつか必ず差別される。それならば子どもの時から差別の現実を教え、人種が違っても同じ人間だとシンプルに考える心構えをしたい」と指摘。

「施設から社会に出る時にどんな苦労があり、どんな知恵が必要なのか、退所の前に学びたかった」と語った。親代わりの年上の友人たちが人生経験をさせてくれたという矢野さん。「友人たちに恩返ししようとして怒られ、自分も下の世代に何かしろと言われた。優しさは見えないところでつながっていくんだと思った」と振り返った。

20 年度より埼玉県内の小学校にて先生方を対象に
虐待の実体験と
虐待をいかに早期発見するか等」について講演を行う。
本年度は「教育随想（校長先生向け冊子）」（上記）に
掲載していただきました。
2021年度小学校を含むその他講演回数：３９回

教育随想

小学校教育と校長への期待

——虐待を受けた私だからこそ伝えたいメッセージ——

一般社団法人コンパスナビ就労支援・自立支援　広報担当リーダー
ＹｏｕＴｕｂｅ情報発信番組　ＴＨＲＥＥ　ＦＬＡＧＳ～希望の狼煙～出演
ブローハン　聡（さとし）

声なきSOSを見逃さなかった先生

あの日の先生の気付きや選択によって今の自分がいます。日本で生まれた私は、「普通」とは離れた幼少期を過ごしました。フィリピン人の母親から産まれた私を、実の父親は既に別の家庭をもっていたために認知せず、無戸籍、無国籍のまま、義父からあらゆる虐待で命を脅かされる日々を児童養護施設に保護されるまで、耐え抜いてきました。ライターで皮膚や耳やお尻を炙られ、火傷の痛みでうまく座れずにいた私。その様子に違和感を覚えた担任の先生が虐待による火傷を発見し、保護されてから約十八年が経った現在、私は二十九歳になりました。

今思うと、あの日いつものように先生に見つからないよう、虐待のことを隠していたら、今日この瞬間まで生きていなかったかもしれません。こうして全国の校長先生や先生方へ向けて言葉を紡ぐこともなかったのかもしれません。改めて、あの時の小学校の先生への感謝と同時に、メッセージを届けることができるこの機会に、とても感謝しております。私の活動や活動に至るまでの体験を通して、児童虐待をどのように学校で考え、どう取り組めるのかを経験者の一人としてお伝えしたいと思います。

校長先生方、どうぞ最後まで読んでいただければ幸いです。そして、願わくば先生方や学校を通じて、地域の子どもたちの一人でも多くの命が紡がれていくことを祈っています。

社会的養護を巣立った若者の居場所事業

～クローバーハウス～

クローバーハウスとは？

CLOVER HOUSE

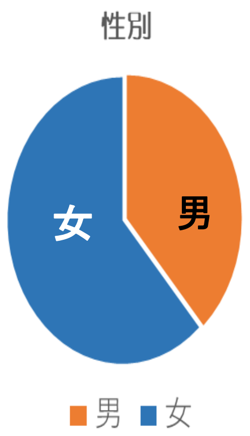
埼玉県の児童養護施設退所者等アフターケア事業居場所事業

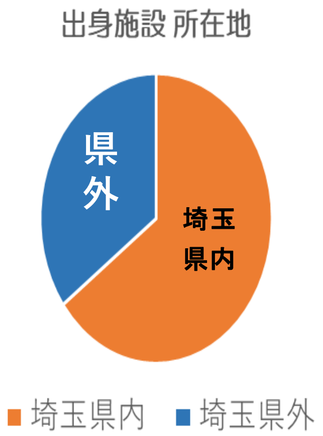
児童養護施設や里親など、社会的養護出身の若者は、
社会に巣立つときに一人での生活を余儀なくされます。
そうした若者たちの居場所として、
沢山の人と「繋がる」そして「集える」場所となり
悩みや様々な「相談」を自然と話せる場所にもなっています。

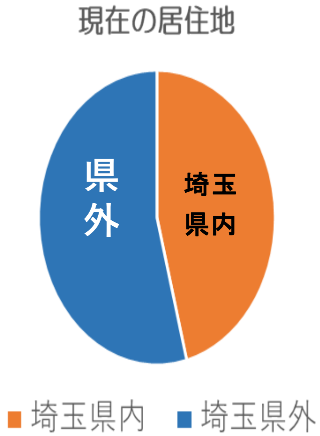
- 開所日が（木）（金）（土）
- 開所時間が１２時～２０時（事前予約）
- 利用者１８歳～３０歳前後の若者たち
- 交通費上限2500円まで支給
- お弁当が100円で購入
- レンタルスーツ貸し出し

クローバーハウスぷち統計

クローバーハウス利用者の属性







2021 年度　クローバーハウス利用者数

月	来所者数	新規利用登録者数	利用登録者数累計
４月	53	1	78
５月	80	4	82
６月	59	1	83
７月	62	0	83
8 月	52	1	84
9 月	45	2	86
10 月	92	0	86
11 月	113	4	90
12 月	76	6	96
1 月	71	1	97
2 月	62	3	100
3 月	85	1	101
計	850	24	101

クローバーハウス来所者に往復交通費を支給しているため、埼玉県外からも多くの利用者が来ています。
この交通費は株式会社クラシカルエルフ様（本社 さいたま市）から全てご寄付としてご提供いただいています。

クローバーハウス（埼玉県 児童養護施設退所者等の居場所事業）

埼玉県より受託した居場所事業「クローバーハウス」を

さいたま市 浦和区に開設し、今年度で無事に年目の運営となりました。

社会的養護を巣立った若者たちを

孤立させない。気軽に遊びに行こうよからSOSが繋がる場所へ

また何でも相談できる 居場所として、利用者の心の拠り所となっています。

利用登録者は 100 名を超えました。

居場所事業「クローバーハウス」にはこんな機能も

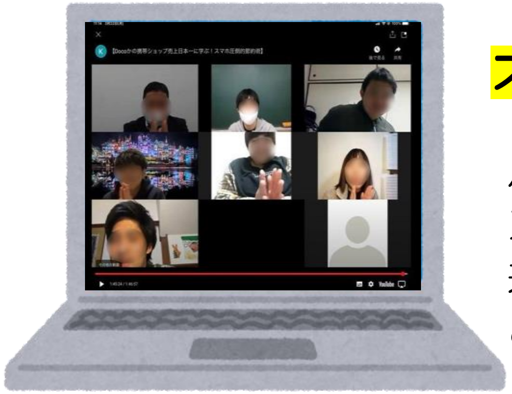
“集える、相談できる場所”以外にも・・・

スーツ無料レンタル

就職活動に必要なスーツ、シャツ、靴、バッグ、ネクタイ、靴下すべてを揃え、無料レンタルしています。
社会的養護出身者のみならず、近隣の若者支援団体さんもご利用いただいています。
アパレルメーカー様からの寄付、また民間基金を利用して購入しました。

寄付品（衣料品・食品）の配布拠点

地元のアパレルメーカー様が季節ごとに贈ってくださる衣料品や、個人の支援者さんから贈られる食品。
クローバーハウス利用者以外にも、他支援団体さんにもお持ち帰りいただいており、寄付品の配布拠点となりつつあります。



オンラインでおしゃべり

月に２回、Zoomで「オンラインクローバーハウス」を開催。特に現在のコロナ禍、遠方だったりで来所が難しい若者たちとも、定期的にコンタクトをとっています。

居場所を利用した当事者たちの声

［**私にとって居場所って何**］

・私にとって居場所が必要

・今は生きていくための必要な依存先

・落ち着ける場所

・なんでも忘れられる場所

・相談所のイメージ　1対1で相談する場所

・困った時に受け入れてくれる場所

・自分の心の中

・安心できてあったかいところ

［**私にとってクローバーハウスとは**］

・頑張らなくてもいいところ。

・社会的養護が身近にいなかったからそういう人達と繋がる場所

・他団体とも交流できるようになった　居場所が複数になった。

・共通の味方がいる事

・最初のイメージ。仕事を紹介してくれる場所だとおもった。

・家みたいにくつろげる　「第2の家」　落ち着ける場所

・時々上で発狂してても大丈夫。

・当たり前すぎて自分の一部

・色々な人と繋がる場所　人間関係でここからの繋がった人が多い。

・縁で数少ない社会的養護の繋がり

・あったかいし、繋がれる場所。

［**クローバーハウスに関わって変わったこと**❀］

・皆の情報聞いたり話したりすることによって性虐待を自覚するようになった。

・他の場所だと仮面作ってないといけないけど普通の人に言えないことをいえる。

・周りの目を気にしなきゃいけないけど、ここだと受け入れてもらえる。

・支援者だけじゃなく、他の利用者にも受け入れてもらえるから。

・繋がりができた。人と関わるようになった

・めっちゃ困ってる人たちが集う場所

・1人1人みんな困っている人にしか見えなかった。だけど、実際は皆それぞれがそうではなかった。

・社会的養護の繋がりができた。色々な団体にも繋がり、以前自分がいた

・児童自立支援施設の職員とも再会した。

・自分の生い立ちの整理をして過去と向き合ったりした

・死ねない理由ができた。

・あとは自分の経験したことを隠さず
声を上げてもいいんだなって知れてそれが誰かの役に立つ事を知った。

生い立ち
児童養護施設に入所するまで

一番幼い時の記憶

4歳から新しいお父さんとの生活

寝て横になっている所頭に枕をあててそこで踏みつける。ジャンプする。

殴る・蹴る

水風呂に沈められる

馬乗り

平手

首を絞める

傘でおもいっきり頭を殴る。

バイク後部で落とされる

ベランダで放置

爪楊枝で頭をさす

話すときは俺の目を見ろ。

押し入れに閉じ込める

ライターで炙る

包丁の刃先を顔の近くに向ける、近づける

裸で屋上に

辛子やワサビやタバスコを塗りたくる

途中から痛みが
消えた

僕がSOSを言えなかった理由

届かない祈りと母親への愛情

家以外の居場所

学校と友達の家と地域

-声なきSOSを
見逃さなかった先生-

全国で1年間に死亡する子どもを約5000人にすると、
「350人」は虐待死の可能性があり、
うち「150人」は虐待死の可能性が極めて高い。
厚生労働省が年度ごとに行っている子ども虐待の死亡事例等の調査によれば、
1週間に1人以上虐待によって命を落としている。

現在児童相談所への虐待相談件数は20万件ほど、
一時保護件数が 3万件、
うち施設に入れるのが5000人ほど、
全国では現在46000人の親から離れ社会で養育する子たちがいて、
毎年大体2000人ほどの子どもたちがこういった施設から卒業していく。

- 本当のお父さんには 違うが家族いた
- 2番目のお父さんにひどい暴力をうけていた事
- 母親と離れ離れになって児童養護施設に暮らしていた事
- 国籍がなくて毎日不安だった事。

児童養護施設に入所後～活動の原点

- 本当のお父さんには 違うが家族いた
- 2番目のお父さんにひどい暴力をうけていた事
- 母親と離れ離れになって児童養護施設に暮らしていた事
- 国籍がなくて毎日不安だった事。

中学2年生の11月に
乳がんでお母さんがなくなる

頭では良くないっておもっていたけどこんなことを考えていた。

お父さんと2番目のお父さんに復讐を

お母さんには僕は生まれてなかったら

毎日生きている
意味をさがしていた

毎日心でこんな生き地獄ならいっそ。

きっかけ

活動の原点とエネルギー

自分に3つの約束

・死んだ時にお母さんにとって誇りある息子になって報告しに行く。

・どこかで生きている
お父さんと2番目のお父さんには違う形でギャフンっていわせてやるって。

・誰かにとってあの写真のように人生の"きっかけ"

伝えたいこと

【子どもの問題行動は声なきSOSのサイン】

子どもは虐待通じて大人に対するあきらめと不信感、恐怖心を抱いている事が多いです。

またどこまでやったら叱られるか試すための挑発的な言動ををします。

大人には問題行動として見える事がありますがその行動や言動には言語化出来ない
「**願い**」があります。表面上に出てくるのは氷山の一角です。

子どもの言動の奥の背景に心を向けて理解しようとする姿勢を見せ続けてください。

最後になりますが子ども特有の世界からみたら人生を大きく左右する力を持っている大人は全てでもあります。

今まさにこの瞬間もどこかで傷つけられている子ども達はキーパーソンとなる人が必要です。

キーパーソンになりうる身近な大人が多く存在することで
これまで見て見ぬふりをされていた虐待が表面化し
孤立する親を救ったり小さな命を守る機会に繋がります。

学校や地域で関わる大人はそれほど重要な存在なのです。

ご清聴ありがとうございました！